

数学

京都大学 [理系] (前期)

<全体分析>

試験時間	150 分	解答問題数	6 題
------	-------	-------	-----

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

⑥以外は解答の方針が立てやすく完答が狙いやすい問題であった。

その他トピックス

①, ④は文系と共通。⑤に (3) まで誘導がある。昨年多かった数Ⅲの出題は1題だけであった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
①	対数・評価	数学Ⅱ	常用対数を用いた評価	やや易
②	確率・数列	数学A 数学B	札の番号に関する確率	やや易
③	整数	数学A	3つの整数の最大公約数	標準
④	空間図形	数学A	「図形の性質」の利用 (問題文にベクトルはあるが、ベクトルは用いないのが自然である)	やや易
⑤	微分法・積分法	数学Ⅲ	長方形の面積の最大値に関する問題	標準
⑥	数列	数学B	3で割った余りと漸化式の融合	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

論理的な思考力と論証力を養うこと。また、最後まで計算しきる力も問われているので、普段からしっかり計算する習慣を身に付けること。誘導する小問がない形で出題されることが多いので、方針を立てることや有効な設定を意識して誘導する小問を削除した問題でも練習しておくべきである。色々な分野が満遍なく出題され、どの問題でどの分野を使うか自由度が比較的高いので、そのような問題にも対処できるよう普段から意識して演習してほしい。